

## 参加者募集要領



# 国際協力NGO 『インパクト評価入門』 研修事業

マイクロソフトのアクセスによる社会調査データベースの形成手順の演習を新たに実施！！（例：生徒、教員、校長の回答結果の統合）

“事業の効果を数字で示すことはできないだろうか？”

“事業の効果を評価する手法を体系的に学んでみたい。”

“事業の効果を計るための統計分析手法にも興味があるが、難しいのはご免だ。だれかわかりやすく教えてくれないだろうか（まったく予備知識なし&完全に専門用語なしで）”

…こうした声に応えるために、『インパクト評価入門』を企画しました。

住民のニーズ、今後の抱負、将来の夢や希望。評価はいつもそこから始まります（それが本来の評価です）。そして、その実現への貢献を数字で表すことができれば素晴らしいですね。その方法を一緒に学びつつ、限界や効用を議論してみましょう。

本研修は2008年、2009年、2010年と3回、東京にて実施しましたが、参加された方々より好評をいただきましたので、今般初めて、大阪にて実施いたします。

＜企画・実施：(一財)国際開発センター＞

## <研修事業の背景>

NGOの声  
その1:  
定量的に効果を示せといわれる  
ができるのか?

「事業の効果を数字を使って定量的に示してください」と打診されることが多くなりました。しかしそんなことが本当に可能なのでしょうか。また、数字を使えばそれでいいのでしょうか。何か体系的な方法があるのでしょうか。

じつは事業の効果を定量的に評価するための体系的な方法は長い間にわたって研究されており、その手法は徐々に洗練されてきています。本研修では、そうした手法の中からNGO事業の評価に適用可能と考えられる、非常に簡単なアプローチから、もっとも厳格で客観性が高いとされる方法まで、3タイプ6種類の手法について学びます。

この研修は、単なる講義ではなく、参加者が電卓をたたいて、紙と鉛筆を使って記入することを通じて、事業の効果を評価する確かな技術を学んでいきます。

NGOの声  
その2:  
統計検定などもこの際学んでみたい。

また、電卓とエクセルを用いた簡単な統計検定についても研修致します。まったくの予備知識なしで参加可能で、専門用語を廃した分かりやすい説明に徹して行います。

さらに今年度から、アクセスを用いた社会調査データベースの構築(例:生徒、教員、校長のデータの収集と統合)と、行政データ伝達システムの構築(村→県→中央へのデータ提出と統合)に関する研修も実施します。まったくの予備知識なしで参加可能で、専門用語を廃した分かりやすい説明に徹して行います。

(一財)国際開発センター(IDCJ)は、本研修を当センターの社会貢献活動の一環として位置づけています。(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)のご協力を得て、過去3回「インパクト評価研修」「クリエイティブ評価研修」を実施し、好評を博しました。同研修の概要につきましては当センターのホームページ【<http://www.idcj.or.jp>】をご参照ください。当センターではこれらの活動を通じて国際協力NGOの方々と知り合い、将来の連携した活動につなげていければと考えています。

『劇的ビフォーアフター』  
が基本

第1日目: 基本的なアプローチ

インストラクター: 佐々木 亮

本研修は他の参加者との経験共有および知識交換を重視して進めます。

参加者は鉛筆、消しゴム、電卓を持参してください。

時間	テーマ
9:30-	受付開始
10:00- 11:30	<ul style="list-style-type: none"> <li>どれくらい効果があったかはどうやって特定できるのか?:『インパクト評価』の基本的考え方</li> <li>効果、成果、有効性、インパクト、アウトカムなどの類似用語の違い</li> </ul>
11:30- 13:00	1) 5年前と比べてみよう!!: 事前・事後比較モデル 2) 過去のトレンドと比べてみよう!!: 時系列モデル
	(昼食)
14:00- 15:30	3) 国全体、県全体と比べてみよう!!: 一般指標モデル 4) よく似た隣の村と比べてみよう!!: マッチングモデル
15:30- 16:30	5) くじ引きで決めておこう!!: 実験モデル 6) 目標値と比べてみよう!!: その他の簡便なモデル
16:30- 17:00	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場でクリエイティブに利用しよう!!: 『インパクト評価』の限界と NGO 活動への応用</li> </ul>

『なににします?』  
『そうだね、とりあえず平均値』

第2日目: エクセル & アクセスによる集計表の構築と分析

インストラクター: 佐々木 亮

参加者は、鉛筆、消しゴム、電卓のほか、エクセルの入ったパソコンを持参してください。

なお、15時以降の特別講義(⑤⑥)は自由参加です。特別講義にご参加いただく方は、アクセスが入ったパソコンをご用意ください。

時間	テーマ	概要
10:00- 12:00	①集計表によって調べてみよう ②平均値の計算:『なににします?』『そうだね、とりあえず平均値』 ③ばらつき具合をあらわす値の計算(標準偏差):じつはこれで村の全体像が見える	
	(昼食)	
13:00- 14:00	③以前の状況と比較して違いがあったと言えるだろうか?(対応のあるt検定)	電卓で手計算してみます。その後エクセルで同じ計算をして値が一致することを確かめてみます。
14:00- 15:00	④隣の村と比較して違いがあったと言えるだろうか?(対応のないt検定)	
15:00- 17:00	<b>【特別講義:自由参加】</b> ⑤アクセスで社会調査データベースの構築(例:生徒、教員、校長のデータの収集と統合) ⑥アクセスで行政データ伝達システムの構築(村→県→中央へのデータ提出と統合)	アクセスを使って、複数レベルのデータの収集・統合・伝達のシステムを構築してみます。

- ◆ 日時： 2010年7月21(木)、22日(金)
- ◆ 参加費： 4,000円  
➤ 参加費は当日会場の受付にてお支払いください。
- ◆ 参加基準： 国際協力NGO等の職員でなんらかの評価経験があること、あるいは評価をしてみたいと考えていること(本研修は類似の研修と比較し、たいへん廉価となっているため、参加者はNGO/NPOの方々に限定させていただきます。)
- ◆ 定員： 20名(先着順とさせていただきます。)
- ◆ 申込締切： 2011年7月15日(金)
- ◆ 申込先： (一財)国際開発センター 業務部(hda@idcj.or.jp)  
メールのタイトルを「インパクト評価入門研修申込み」とし、メール本文に「氏名」「所属先」「役職」「電話番号」「メールアドレス」「特別講義参加可否」を明記の上、お申し込みください。
- ◆ 会場： pia NPO 6階会議室 <http://pianpo.com/acces01.html>  
大阪市営地下鉄中央線「大阪港」駅4番出口下車西へ200m  
〒552-0021 大阪市港区築港2-8-24 TEL06-4395-1123  
周辺地図はこちら→ <http://pianpo.com/acces02.html>

◆ 講師紹介

佐々木 亮 (ささき りょう)



FASIDで『ODA 評価者のための評価ワークショップ』講師を長年務める(2001-2006年)。担当科目は、「ODA評価手法概論」「ODA評価の歴史と評価論理」「組織評価と戦略策定」「セクタープログラム評価」ほか。2010年には、カンボジア日本NGOネットワーク(JNNC)委託「NGO海外プロジェクト強化のためのアドバイザー」として派遣されて評価研修を実施した。日本評価学会主催『評価士養成講座』講師も担当。

現在、(財)国際開発センター主任研究員、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科兼任講師(評価の理論と実践)。評価学博士。ニューヨーク大学で公共行政学修士を取得。ウェスタンミシガン大学評価研究所で学際的评价学博士課程を修了。現在、JICA技術協力プロジェクトの専門家として、タンザニアの農業セクターにおけるモニタリング・評価システム作りを支援している。

著書に、『評価論理：評価学の基礎』『政策評価の理論と技法』、『政策評価トレーニングブック：7つの論争と7つの提言』、『エクセルで政策評価：すごくよくわかる実践的統計マニュアル』、『大学の戦略的マネジメント』(いずれも多賀出版)ほか。



## ご参考

さらに高度な評価技術の習得のニーズがある場合には、以下の出前研修を実施致します。

< IDC J の評価研修サービス（いずれも 1 日コース） >

以下の研修コースをご提供できます（出前研修可能）。

実費（交通費、会場費、講師費用）が必要です。

◎ロジックモデリング（単線型、複雑型）／実績測定	シーク美実
◎アンケート調査／質的評価手法	石田洋子
◎事業効果（インパクト）／費用対効果の評価手法	佐々木亮
◎統計分析手法	佐々木亮
その他	

< 日本評価学会の委託を受けて IDC J が実施する評価研修 >

### 『評価士』養成講座

—6 日間の講座で講座修了証が授与されます。

—講座終了後の試験合格者には「評価士」認定証が授与されます。

—費用は 75,000 円＋テキスト／書籍代（学会員）、105,000 円＋テキスト／書籍代（非会員）が予定されています。

[http://www.idcj.or.jp/9evaluation/CPE4\\_0.html](http://www.idcj.or.jp/9evaluation/CPE4_0.html)